

心と心のつながりを求める時代だからこそ

全国的にも【ふるさと ウェディング】が話題になっています。



今、「ふるさとウェディング」がトレンドに

名称 第1回 ふるさとウェディング・コンクール
目的 「ふるさとウェディング」の全国的普及
主催 NPO法人 全日本ブライダル協会
後援 観光庁 ブライダル産業新聞社

東日本大震災後、「家族や身近な人との絆」を第一に考えるカップルが急増し、ふるさとウェディングへの関心が高まっています。結婚式当日は自宅で花嫁衣装に着替え、両親に娘として最後の挨拶をし、近所の方たちに祝福されて無立つ。幸せに満ちた美しい花嫁を見る機会が増えれば、若い人たちに結婚式への憧れが芽生え、少子化、結婚率の低下に歯止めをかけるきっかけになると確信します。利便性だけが先行した従来の結婚式離れが始まっている昨今、心や絆を大切にしたい、地域の魅力を生かした「ふるさとウェディング」が待ち望まれています。観光庁後援のもと、NPO法人全日本ブライダル協会では、「ふるさとウェディング」の社会的風潮を高めていくため「ふるさとウェディング・コンクール」を実施いたします。魅力ある「ふるさとウェディング」の作品をお待ちしております。

募集内容

テーマ ふるさとウェディング/地域の魅力を活かした華式スタイル
【※実施地域は「ふるさとウェディング」実施、正式、キリスト教、一般入札制。ふるさとウェディングは問いません】

応募資格 ふるさとウェディングを実施した企業・団体

応募方法 ① 実際の結婚式を30分以内に編集したDVD
② 当該華式の基本プラン、スケジュール、決算書、写真、レポート

※DVDは、参加企業様の住所内では実施いたしません。実施地域外の参加は、ご自身の責任とリスクをもち、郵送にてご応募ください。応募作品の選定はいたしませんので、その旨ご了承下さい。応募締切として後援機関が定めるものとします。

募集期間 2012年6月15日(金)締切り

審査基準

- ① 家から花嫁支度なし、近所の人、町、村の人に挨拶して出発する
- ② 地域の名所、旧跡、公園など、式場が工夫されている
- ③ 地域独自の風習(仏婚参り、花嫁のれん、船乗り入れ等)を生かしている
- ④ 披露宴での食事メニューに地域の物産を取り入れている
- ⑤ 引き出物に地域の伝統工芸品や民芸品などを取り入れている

【注】①～⑤すべてに該当しなくても、特長が活かされた作品は、また⑥も満たしている作品でもよいものとします。

審査員 桂三枝(言語家) 観屋崎若吾(華道家) 桂由美(デザイナー) 志村裕(観光庁観光地域振興部長)

審査発表 2012年6月末日 **表彰式** 2012年7月11日(水)【ブライダル産業フェアにて受賞作品DVDを上映】

表彰 観光庁長官賞 1企業・団体 副賞50万円 記念杯 審査員特別賞 3企業・団体 副賞10万円 記念杯

問い合わせ先 NPO法人 全日本ブライダル協会
〒107-0062 東京都港区南青山1-15-18 リーラ乃木坂8階 TEL:03-5413-1778 FAX:03-5413-0707

本年、観光庁などの後援を受けて全日本ブライダル協会では「第1回 ふるさとウェディングコンクール」を開催するとのこと。

全国的なこのような風潮に先駆けて、弊社では数年前より【ふるさと讃岐の結婚式】を呼びかけてまいりました。

今、【ふるさと結婚式】が注目される背景には、結婚をするカップルの晩婚化により両親や家族も晩婚化していること、また価値観の多様化により出席者の顔ぶれも一昔前とは変化したことなどが挙げられると思います。

さらには、『結婚式』という人生最大の儀式的瞬間にこそ、自分たちの"ルーツ"について考えるべきだと心と心の通い合いを求める世相も、商業ムードに流されイベント化された結婚式に疑問を感じる本物志向のアラフォー結婚も、ふるさとでの結婚式をけん引する理由となっていると思います。